

足利市経済諮問会議
会長 林 明夫

2012 年を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。昨年中は御多忙の中、足利市経済活性化諮問会議に御参加頂き有難く感謝申し上げます。

お陰様で、2011 年 9 月より毎年 1 月の本会議と 2 回のヒアリング(茂木敏充衆議院議員、富田茂之衆議院議員)、1 回の現地視察(岡崎市)と活発な活動を行うことができました。ありがとうございました。

さて、この足利市経済活性化諮問会議は、大豆生田実足利市長直轄の諮問会議として市長と足利市の関係部課長の臨席の下、足利市の経済活性化のために行われているものであります。

バブル崩壊後の 20 年にわたる長期経済停滞、デフレ、超少子高齢化、国・地方の債務残高の膨張、3.11 の東日本大震災と大津波、福島原発事故による放射能被害、超円高、新興諸国の台頭、リーマンショック、欧州経済危機と、冷戦の終結以降様々な出来事が毎日のように発生し、企業経営や事業経営、地域経営は困難を極め、我々の企業や事業、足利市もその例外ではありません。

このような厳しい状況の中、ピンチをチャンスに自らの企業や事業をどのように維持・発展させ、地域とともに生存を維持し、地域の活性化ひいては発展に貢献するか、足利市の経済活性化に繋がっていったらよいか。更には、足利市の経済活性化のために何をしたらよいのかを、皆様の豊富な経験と知見をこの会議を通じて、足利市の経済活性化のために御披瀝頂きたく希望いたします。

新年 1 月からは、今までの本会議と有識者のヒアリング、現地視察に加え、重要なテーマごとにワーキンググループや委員会を設け、本年 3 月の中間答申、8 月の最終答申に向けて議論を深めたく存じます。

(1) マクロ経済分析、ワーキンググループ・委員会

- ①世界経済や日本経済の動向を捉えながら、足利市経済の活性化策を具体的に提言。
- ②必要な場合、国や県、日本銀行などに対しても提言。

(2) まちづくり、ワーキンググループ

- ①足利市の歴史・文化・伝統、よさを見直し、最大限生かしながら、足利市のブランドイメージを向上させ、足利市全体および各地域ごとの特色あるまちづくりを考える。
- ②足利市内の空き店舗や遊休不動産・施設の有効活用や整理・統合による足利市経済活性化。
- ③足利市の観光政策の抜本的見直し。

- ④地震等自然災害に強いまちづくり。首都圏直下型地震の際に避難民受け入れ先としての体制づくり。
- ⑤豊かな自然に親しみながら生活できるまちづくり(週末農業、週末林業なども含めて)。
- ⑥子育てしながら仕事や社会活動ができるまちづくり。
- ⑦外国人や足利市外から移り住む人々が快適に生活できるまちづくり。

(3)ものづくり、ことづくり、ワーキンググループ・委員会

- ①厳しい環境や変化の下、足利市のものづくりを今後どうするのか。「5S の街、足利」をテコとしてどう活用し、企業間連携をすすめ、国際競争力のある足利市独自の産業クラスターの形成に結びつけたらよいのか。
- ②専業としての農業・林業の発展を足利市の経済活性化にどう結びつけたらよいのか。
- ③労働生産性が低いといわれるサービス産業をどう活性化させ、雇用の受け皿としての役割を果たしたらよいのか。
- ④外国企業の国内直接投資(FDI Foreign Direct Investment)や国内企業を足利市にどう呼び込むか。MandA の促進をどうはかるか。
- ⑤新しい雇用を生み出し足利市を経済活性化させるために、企業内創業やベンチャービジネスを足利市を挙げて支援・育成し、中小企業・中堅企業にまで育て上げるにはどうしたらよいか。
- ⑥エコノミックガーデニング(Economic Gardening)、地域主体のビジネス環境整備手法を活用し、足利市内の雇用をどう 2 倍にし、税収 3 倍増を実現したらよいのか。

(4)医療・介護・福祉、ワーキンググループ・委員会

- ①遂に世界初の超高齢化社会が日本に到来。今後、足利市をはじめとして、地域社会に大きな影響を与えようとしている。とりわけ、大量の団塊の世代が 75 歳を迎えるといわれる 2025 年にどう対処するかが最大の課題なので、足利市の将来を見据えて真正面から議論したい。
- ②最大の課題は医療・介護・福祉の質の向上(Quality of Life)。その前提は、家族やこれらを担う専門職の人々が安心して生活できる、働ける、スキルアップ(能力向上)できる足利市づくりだ。
- ③「いつまでも若々しく生きる」まちづくりをするためには、高齢者本人の自覚と家族や地域の理解が欠かせない。そのためにできることは何か。持続可能な地域医療・介護・福祉についてゼロベースで考え、高齢者の尊厳をもった生き方の実現と足利市の経済活性化に結びつけたい。

(5)教育改革委員会

- ①日本最古の学校「足利学校」のある足利市にふさわしい日本の最高レベルの幼児教育、小学校教育、中学校教育、高校教育、大学教育、短期大学教育、専門学校教育をどう実現するか。上記の各学校間の連携、例えば幼小連携、小中連携、中高連携、高大連携をどう実現するか。家庭教育をどう実現するか。社会に出てからの教育、産業教育、専門職教育をどう実現するか。産学連携をどう実現するか。従来型の社会教育(公民館などでの)や大学開放をどう充実させ、どう日本一のレベルにまでもっていくか。
- ②「論語」や、徳川家康が足利学校に改版を命じ全国に広めたという、唐の時代を築いた太宗の政治に関する言行を記録したリーダーシップの古典「貞観政要」を、足利市民にどう定着させ、規範教育やガバナンスの強化に役立て、足利市の経済活性化に結びつけるか。

- ③文部科学省や産業経済省が奨励し始めた MOT(Management of Technology 工学経営)修士課程や高等専門学校などを足利市でも開設し、高度な産業人の育成にどう結びつけるか。
- ④経済のグローバル化や国際化が更に進むと思われる中で、すべての学校で学ぶ児童・生徒・学生はもちろんのこと、足利市民とりわけ職業をもち、また社会的な活動をする人々の英語によるコミュニケーション能力をどう高めるか。足利市の国際競争力を強化する視点から議論したい。
- ⑤ IT 教育、更には、IT の専門技術者育成教育を徹底的に推し進め、足利市の経済活性化に結びつけるにはどうしたらよいかを議論したい。

内村鑑三に「後生への最大遺物、デンマーク国の話」(岩波文庫)という講演速記録があります。人は自分が死んだ後、後の世に何が遺せるか、お金か、事業か、著作か、教育か、生き方かという問題提起であるかと思えます。この足利市経済活性化諮問会議における議論や提言が、30 年後、50 年後の足利市の活性化や市民生活の充実に少しでも役立つものと信じて、皆様の御協力を賜りながら活動を進めたく思います。あと 8 か月間どうかよろしくお願い申し上げます。

以上